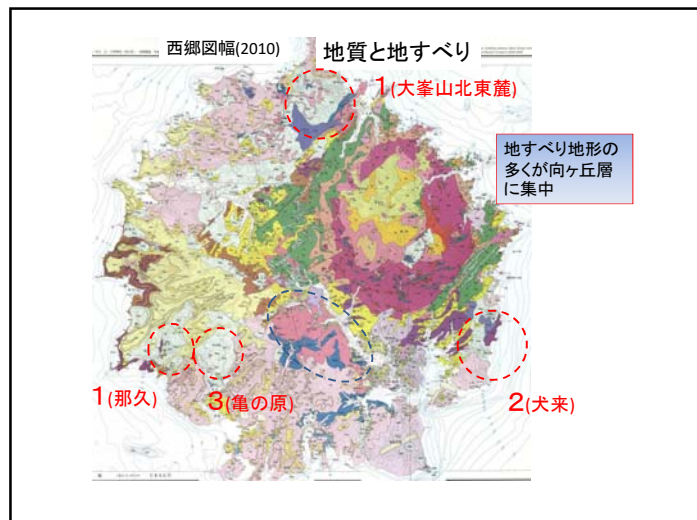
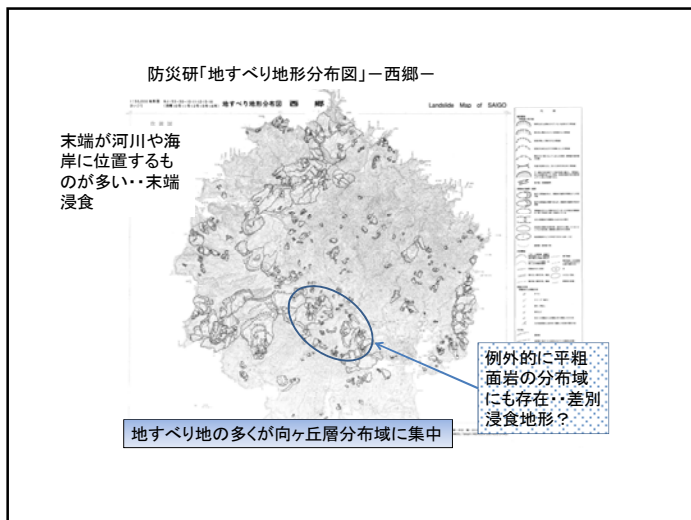


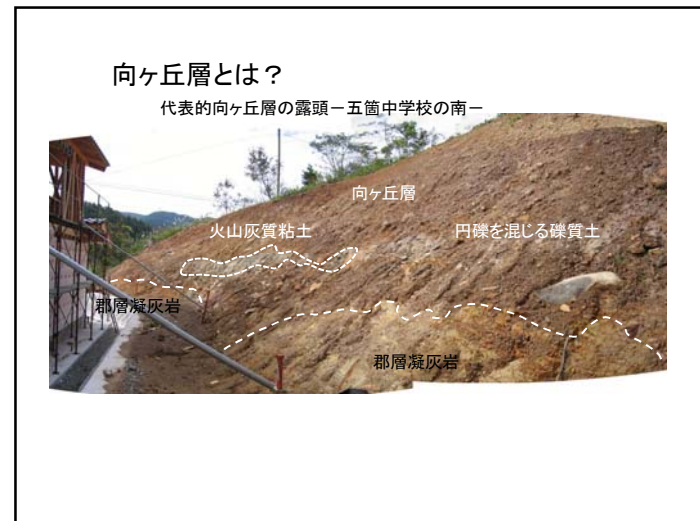
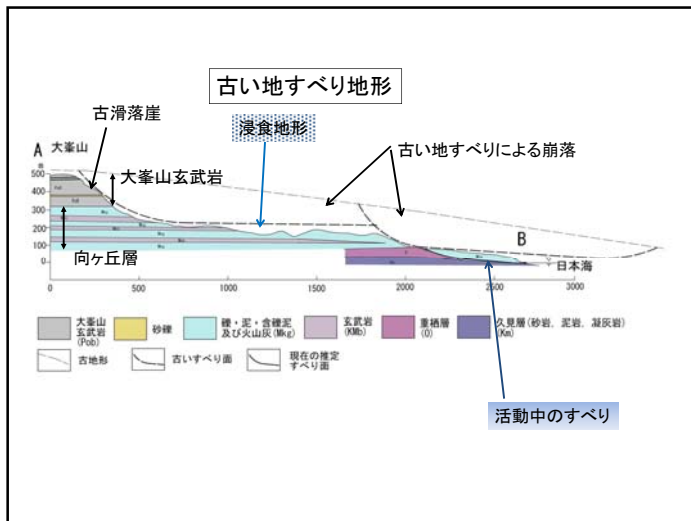
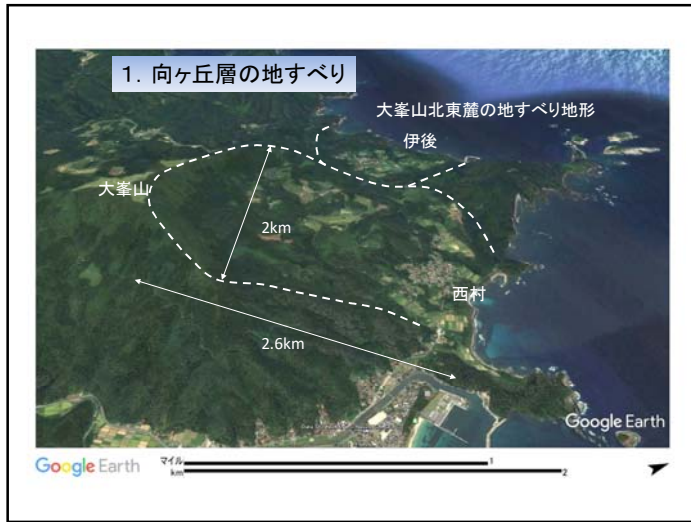


## 島後地区の地すべりと地質

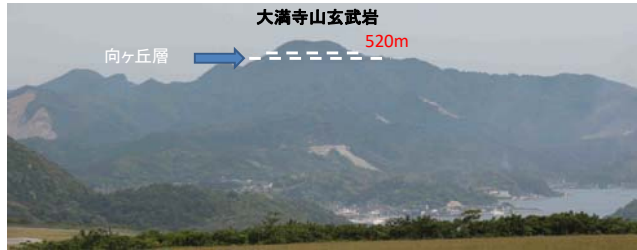
地質層準ごとに3タイプに分類可能

1. 前期鮮新世「向ヶ丘層」の地すべり
2. 前期中新世「郡層」堆積岩類の熱水変質帯地すべり
3. 後期中新世「重栖層」火山岩類の地すべり





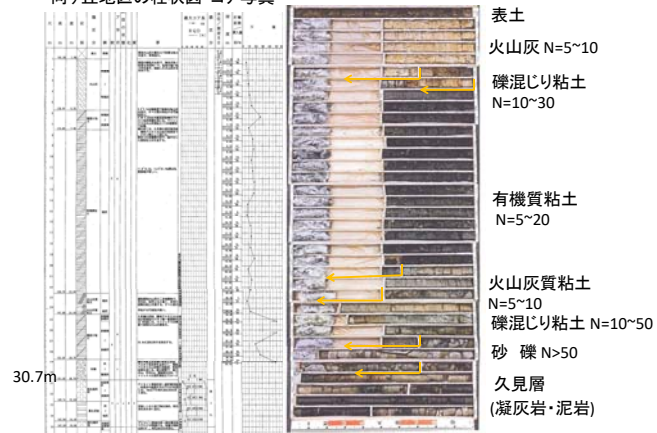
### 大満寺山(607.7m)にも分布



### 大満寺山の標高520m付近に分布する向ヶ丘層

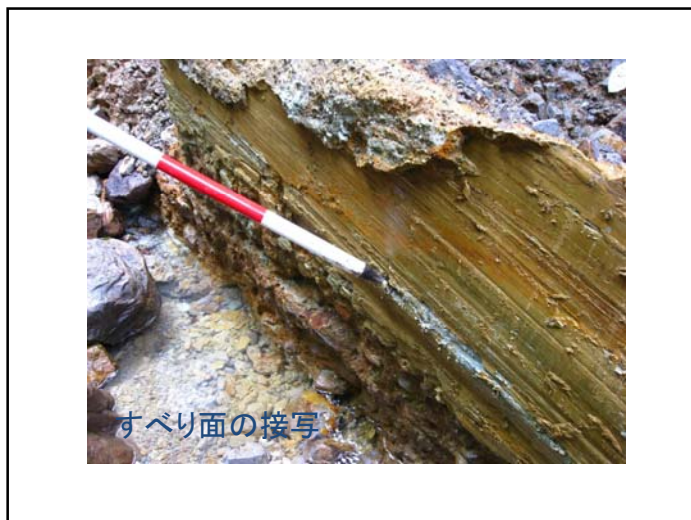
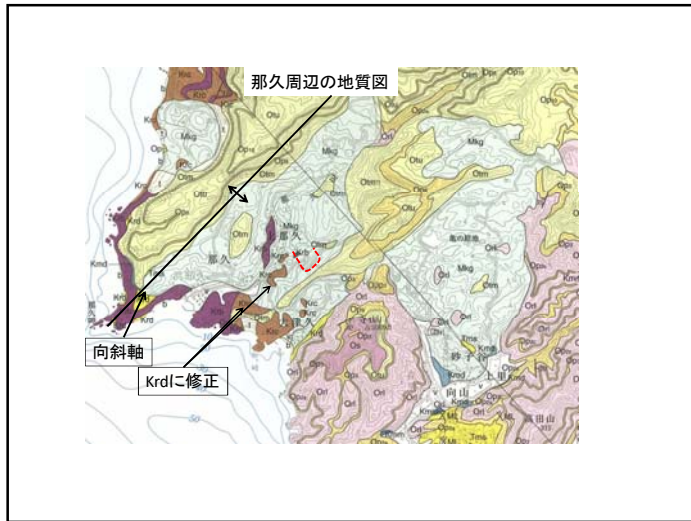


向ヶ丘地区の柱状図・コア写真

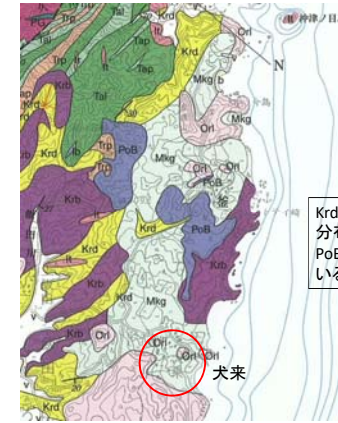


上那久地すべり災害で見られるすべり面粘土の事例(2000)

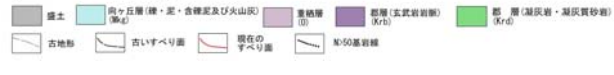
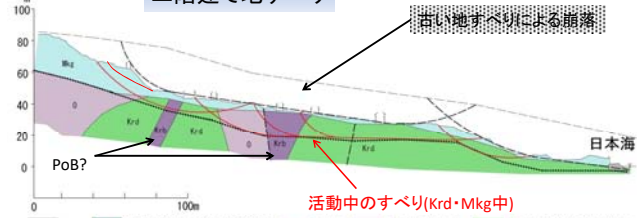




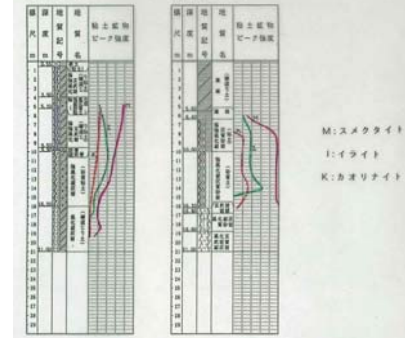
犬来～大久にかけての地すべり地形

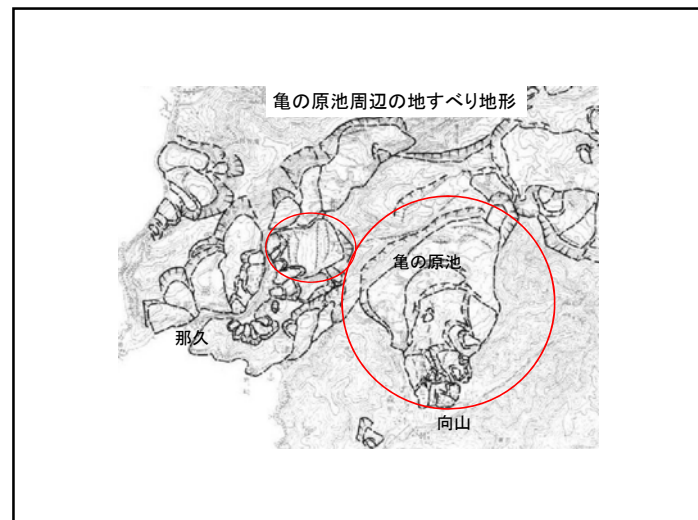
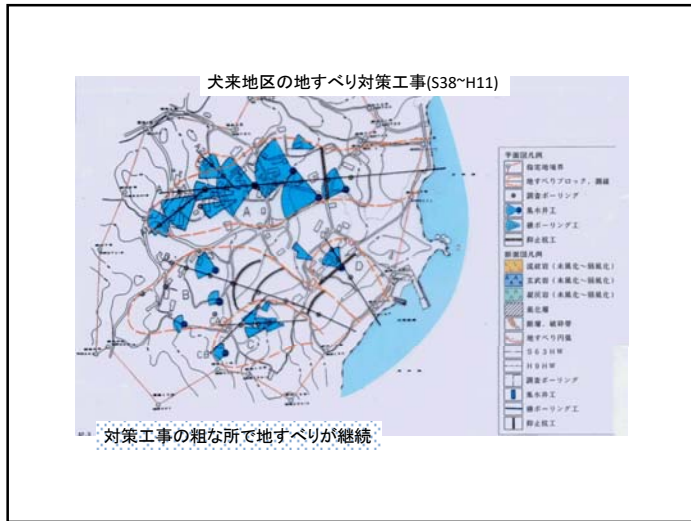


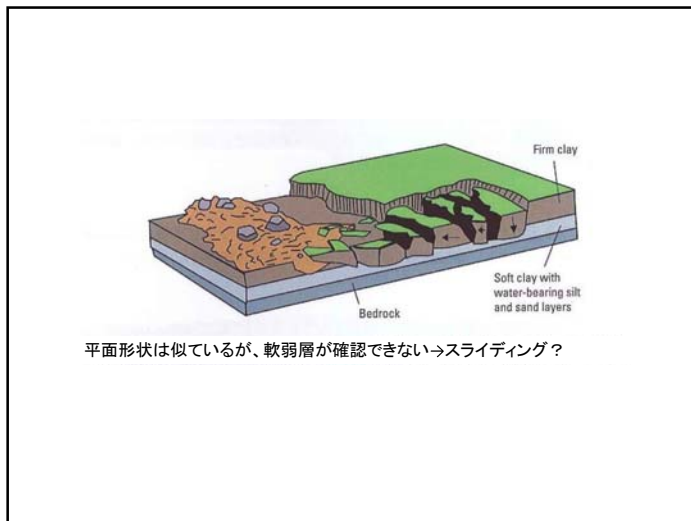
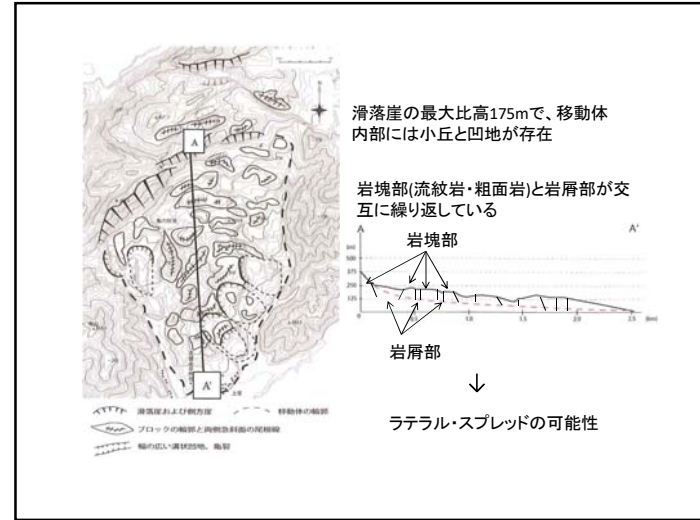
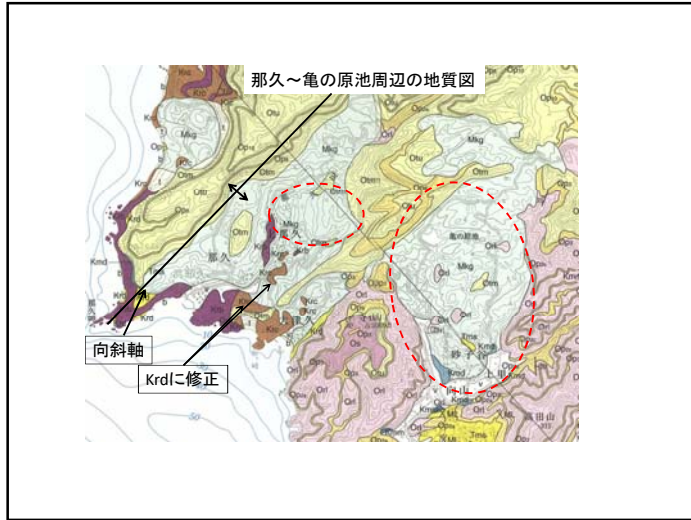
二階建て地すべり



粘土鉱物のピーク強度→郡層の熱水変質による粘土化



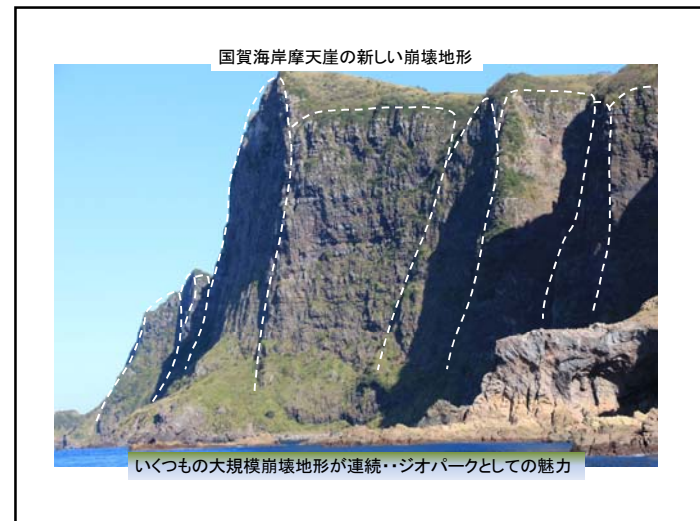
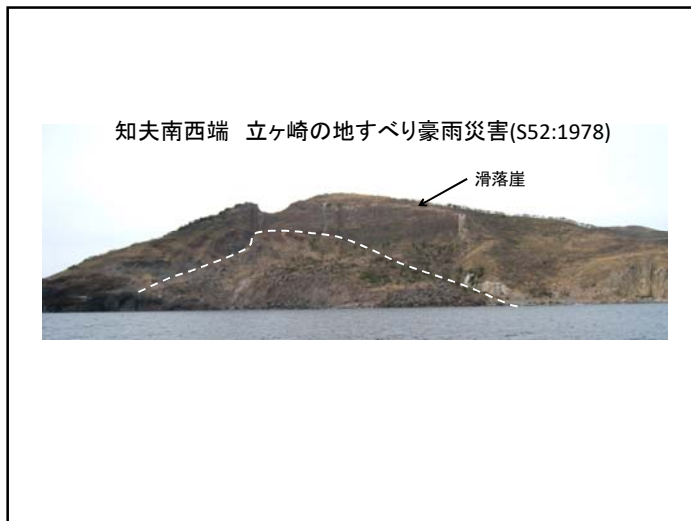
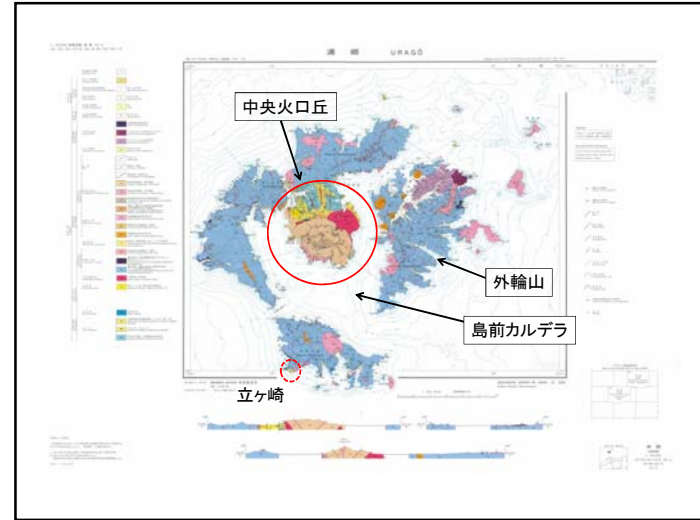
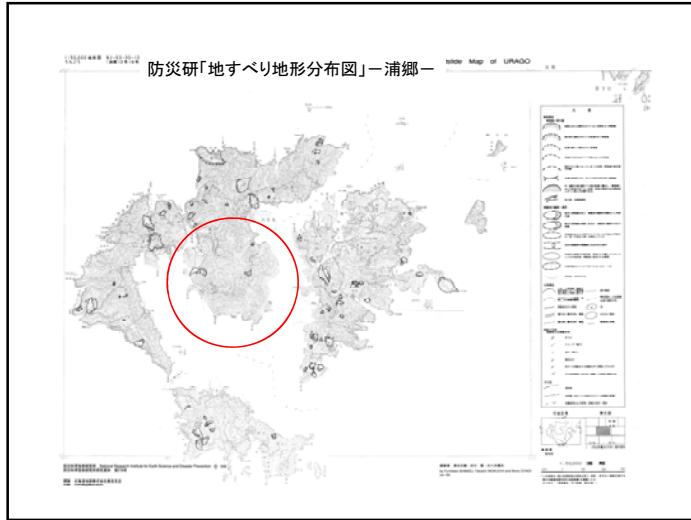




## 島前地区の地すべりと地質

地質層準は単一

1. 地すべりは後期中新世島前火山「外輪山」で発生





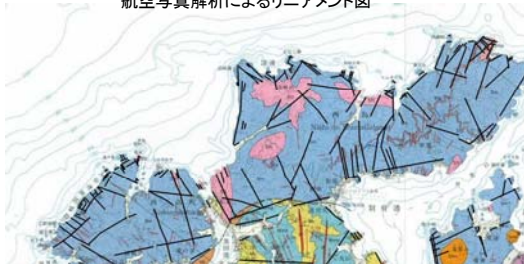
東国賀の新しい崩壊地形1



東国賀の新しい崩壊地形2

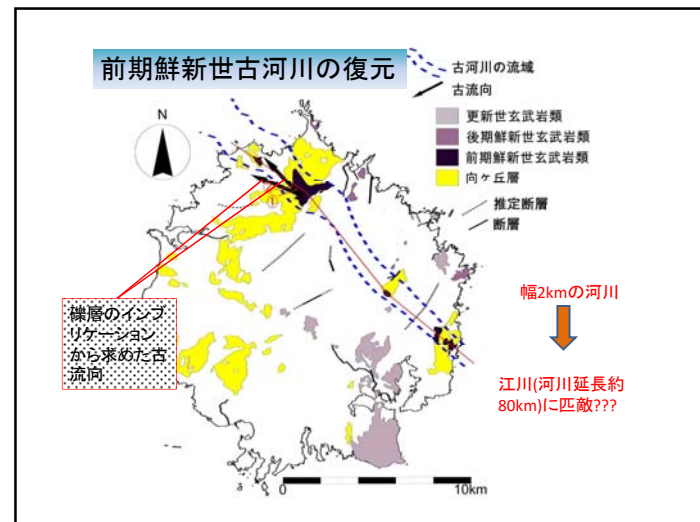
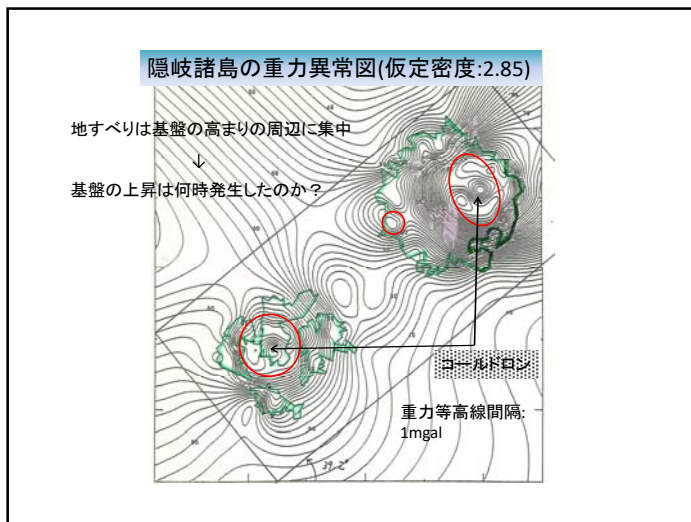
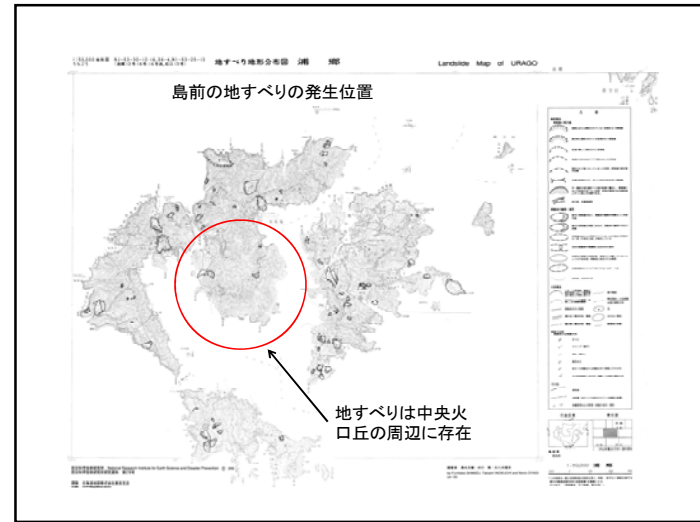
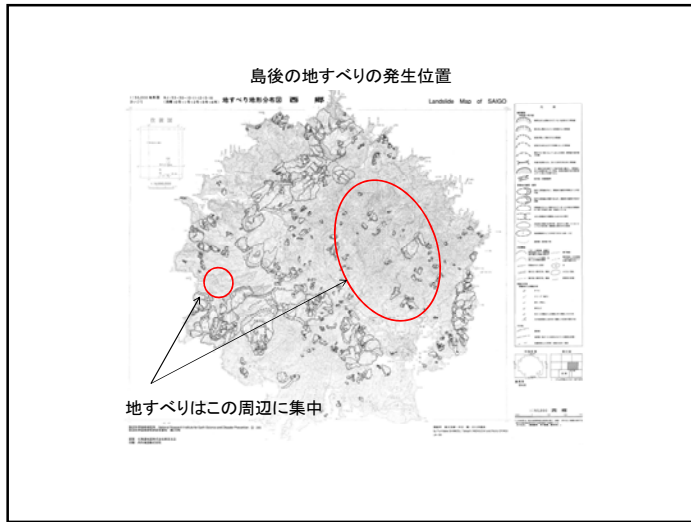


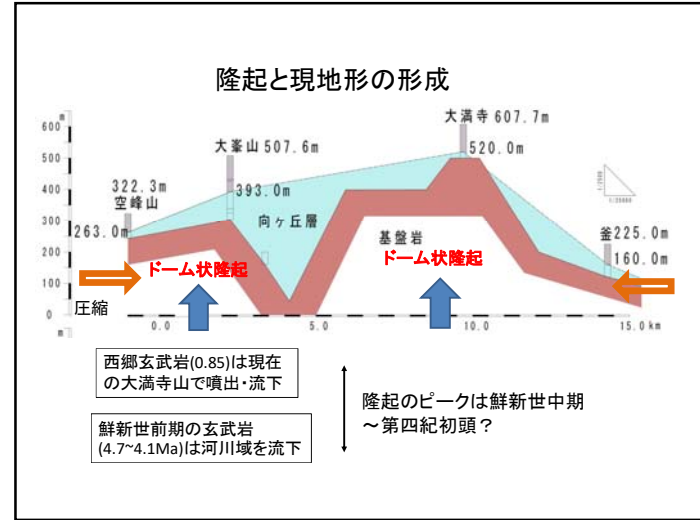
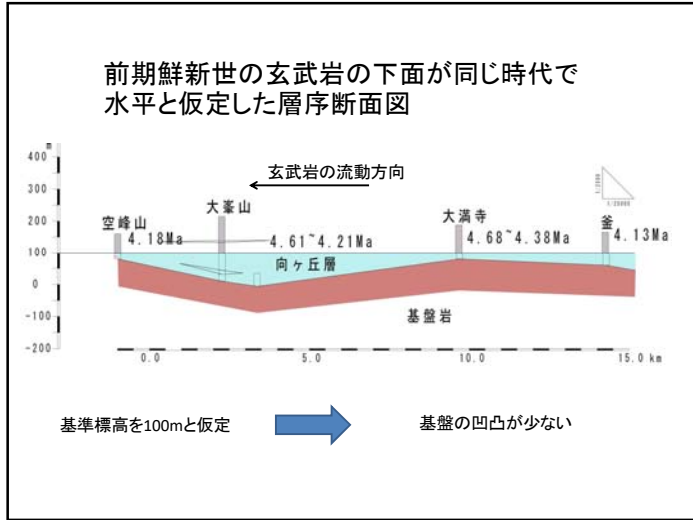
航空写真解析によるリニアメント図



海岸の崩壊地の背後に亀裂～二重丘陵線が存在  
崩壊に伴う後方岩盤の不安定化?or古い地すべり現象?

地すべり・崩壊から見えるもの





### 隆起は何時、なぜ発生したのか?

Stage 1. (5.7~5.0Ma)-後期中新世~鮮新世初頭(重栖層・葛尾層の時代)

- 火山山体の成長
- 噴火に伴うマグマ圧力の低下→カルデラ形成や沈降・山体崩壊→海進と向ヶ丘層の堆積→次第に隆起(河川堆積物を伴う)

Stage 2. 4.0~1.3Ma(前期鮮新世後期~前期更新世)

- 東西方向の圧縮応力場・広域的隆起
- ドーム状の隆起・・・なぜか?

隠岐周辺の地殻熱流量は大きくない  
しかし玄武岩の活動・五箇温泉源の地温上昇率6.5°C/100m(1,246mで孔底温度96°C)  
↓  
スポット的に新しい熱源が継続的に供給?

### 地すべりから見えるもの・・・まとめ・・・

島後

- 地すべりの地質層準は郡層(変質帯)、重栖層、向ヶ丘層に集中
- Keyは重栖層で、郡層の変質熱源&向ヶ丘層の礫の主供給源
- 地すべりの原因は脚部浸食(河川・海岸)とキャップロックからの地下水

島前

- 地すべりの地質層準は島前火山の外輪山溶岩
- 地すべり・崩壊の原因は脚部浸食(海岸)が多い→ジオパークの魅力

共通

- 地すべり地塊は基盤の高まり(隆起部)周辺に多い
- 隆起の原因は・・・これからの研究課題

